



災害の概要と対応の方向性をお知らせした説明会（茶屋場自治会館）

災害を経験して

●あわや床上浸水 平塚ミツ子さん(60歳・寺田)

家には何度も水が上がっていますが、こんなに急に水が出たのは初めてです。畳をこし、荷物だけは保育園に移させてもらいました。消防団に土のうを何段も積んでもらったので、床上浸水にはならず助かりました。河川がまっすぐ流れればいいと思います。

●水の大切さを知る 本宮 毅さん(43歳・泉田)

給水車を利用し、普段は何とも思わない水の大切さを知りました。家族7人なので、炊事や歯磨き、特に洗濯には困りました。最初の日はお風呂には入れない状態でした。これを機会に防災用品や食料、水なども少しは用意しておこうかと話し合いました。

●自然と向き合いながら 星野俊博さん(39歳・星野)

星野川は、平成5年の災害復旧工事で直した所は大丈夫でした。道路と川の区別がつかないほど水が押し寄せ、家の前は湖のようでした。目の前ではこの辺は農作物被害のほうが多いと思えます。農業は常に自然と向き合うようなことが増えると思っています。

●この経験を生かしたい 第1分団長 本地成雄さん(52歳)

管轄区域が一番の被災地となり、人手も足りず、土のうをいくら積んでもお手上げ状態でした。600個ぐらいい積んだ家もありますが、水の勢いに流され、手作業の限界を感じました。避難誘導は早めに対応できましたが、避難所の管理をもう少し徹底できればよかったと思っています。水の出やすい場所も分かり、経験をこれからにつなげていきたいと思っています。

災害への対応

●炊き出し（象鼻会館）

婦人消防協力隊員を中心に、婦人会や地区の若い人たちが進んで炊き出しを手伝いました。「役に立てればうれしい」と浦子内町内会の人も協力してくれました。



茶屋場自治会（吉沢賢太郎会長、二百二十八世帯）は、十月二十五日に役員会を開き、今回の水害での対応を検討しました。地区民一人が水害に関連して亡くなられたこともあり、特に避難所の管理などについて活発に話し合われました。▽避難者名簿を作成しても出入りを規制していないため、その後の確認が難しくなるとの反省から、避難所では班ごとに座り、出入りするときには声を掛け合う▽高齢者が多いので、避難勧告は早いほうがよい▽同じ地区でも勧告の出ない区域は、災害があったことすら知らないでいる人もいた。分かっていれば協力できたという人も多いことから、情報の収集だけでなく、情報を提供し、状況を周囲に知らせることも大切である▽たとえは、炊き出しの経費はどうなるのかなど避難所での指示を受けたらいいのかわからなかった。責任者を決めるなど、体制づくりを考え

ていく必要がある——などの意見が出されました。初めての経験であり、防災対策マニュアルもない状況ながら、全般にそれぞれの立場で力を発揮し合えたのではなにかと話していました。また、元町川の改修工事の遅れも根本的な災害の要因との声もあり、自治会としても、地区内の被災箇所の状況を把握しながら、出来る限り被災者の不安を取り除けるよう町などに働きかけることにしました。出席した役員二十五人は、今回の経験を生かすために、自治会として今ある組織を活用しながら、防災対策を進めていくことなどを確認し合いました。



●避難所（象鼻会館）

江刈川から茶屋場、四日市の住民が社会体育館と合わせ、108人避難。「まさか、こんなことが起きるなんて」と避難所では、水の恐さを語り合っていました。「初めての経験で何を持って避難すればいいのか迷った」「水害は時間的に余裕があるけど、これが大地震だったら」との声も…。避難所には、防災用毛布が用意され、町の保健師が常駐して避難者の体調管理に気を配りました。

茶屋場自治会が災害を検証



災害を検証した茶屋場自治会

茶屋場自治会（吉沢賢太郎会長、二百二十八世帯）は、十月二十五日に役員会を開き、今回の水害での対応を検討しました。地区民一人が水害に関連して亡くなられたこともあり、特に避難所の管理などについて活発に話し合われました。▽避難者名簿を作成しても出入りを規制していないため、その後の確認が難しくなるとの反省から、避難所では班ごとに座り、出入りするときには声を掛け合う▽高齢者が多いので、避難勧告は早いほうがよい▽同じ地区でも勧告の出ない区域は、災害があったことすら知らないでいる人もいた。分かっていれば協力できたという人も多いことから、情報の収集だけでなく、情報を提供し、状況を周囲に知らせることも大切である▽たとえは、炊き出しの経費はどうなるのかなど避難所での指示を受けたらいいのかわからなかった。責任者を決めるなど、体制づくりを考え

ていく必要がある——などの意見が出されました。初めての経験であり、防災対策マニュアルもない状況ながら、全般にそれぞれの立場で力を発揮し合えたのではなにかと話していました。また、元町川の改修工事の遅れも根本的な災害の要因との声もあり、自治会としても、地区内の被災箇所の状況を把握しながら、出来る限り被災者の不安を取り除けるよう町などに働きかけることにしました。出席した役員二十五人は、今回の経験を生かすために、自治会として今ある組織を活用しながら、防災対策を進めていくことなどを確認し合いました。

給水車3台で対応 仮復旧は3日後に

町の水道にも大きな被害が発生しました。十月七日、江刈川と岩瀬張集落の一部が断水。元町地区の公共マスから雨水が流入し、四日市クリーセンターでは地下室が冠水しました。八日は、泉田の水源地から約百メートルにわたり導水管が折れたため、水が濁りました。上平地区も断水となり、町は自前の給水タンクのほか岩手町と一戸町からも借りて応急給水を始めました。水道施設は、十日までにすべての仮復旧工事が完了しています。ご不便をおかけしました。



寺田から辰鼻までの給水活動。3日間で給水車20台分(20,000ℓ)になりました

総合防災訓練を行います

町では大規模災害を想定し、次のとおり総合防災訓練を実施します。
●日時 11月12日(日) 9:00~10:30
●場所 守山乳業葛巻工場付近

*当日は、サイレンが鳴ります。火災と間違えないようにお願いします。

教訓を生かして 災害に強い町に

気象データでは年々、台風や集中豪雨による被害が多発しているようです。災害時の心得は「自分の身は自分で守る」ことが基本です。これに加えて「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方が地域防災力の向上にもつながっていきます。

町もこの教訓を生かし、職員の間で連絡体制や役割の再確認、情報伝達の方法など一つ一つ検証作業を進めながら、災害に強い町づくりを目指していきます。

町は、十月二十八日から十一月二日まで町内の四会場ですべて説明会を開いています。初日の茶屋場自治会館には、町、県関係者を含め七十六人が出席。被害の概要や土木、農林、商工関係の状況と今後の対応を説明しました。今後の町の予定は、十一月二日までに被災地を確定し、委託料を予算化した後、測量設計を実施。十二月初旬に行われる国の災害査定に向けて取り組みます。災害復旧事業は、緊急性の高いものか

4会場で災害状況を説明

ら順に進めていきます。また、元町川を管理している盛岡地方振興局土木部では、このような災害を繰り返すことのないよう、将来まで見込んだ環境にやさしい川づくりを住民とともに進めたいと協力を求めました。町は、災害で農地にたい積した土砂などを取り除くための機械の借り上げ（五万円以上かかる場合）に対し、助成することになりました。また、各種相談窓口を設けていますので、ご利用ください

相談窓口

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ① 罹災証明(印鑑・1通200円) | 盛岡中央消防署葛巻分署 ☎66-2709 |
| ② 生活相談 | 健康福祉課 (☎役場内線 150) |
| ③ 住宅資金等の貸付相談 | 町社会福祉協議会 (☎役場内線 580) |
| ④ 税金の減免など | 住民課 (☎役場内線 120) |
| ⑤ 商工関係被害 | 企画財政課 (☎役場内線 220) |
| ⑥ 農業関係被害 | 農林環境エネルギー課 (☎役場内線 140) |
| ⑦ 土木関係被害 | 建設水道課 (☎役場内線 240) |
| ⑧ その他 | 総務課 (☎役場内線 210) |